

令和4年11月21日

令和4年

第11回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和4年11月21日（月曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子	委 員	
高 橋 幸 子	委 員	
深 澤 佳 己	委 員	
北 内 英 章	委 員	

2 出席職員（5名）

教育総務部長		今 井 健太郎
参事（教育施設担当）		河原田 光
教育総務課長		政 木 純 也
学務課長		大 竹 豊 和
指導課長		早 川 隆 之

3 日程

日程第1 教育長の報告事項

~~~~~

(午後2時00分開会)

○教育長

それでは、ただいまから、令和4年第11回大田区教育委員会定例会を開会いたします。本日は、傍聴希望者がおります。

委員の皆様は傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に三留委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第1は、「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

11月になりまして、各学校で研究発表会、周年行事がありましたので、それについて報告させていただきます。

まず、10月31日に、小池小学校で研究発表会がございました。「未来社会を創造的に生きる子どもの育成」という研究主題で、新たな教科である「おおたの未来づくり」に向けた授業づくりを通じて研究発表をしていただきました。それぞれの学年で、小池小学校の新教科に向けての取組を教えてくださいました。子どもたちが非常に活発に話し合いをしている様子がよく分かりました。

おおたの未来づくりの目的は、創造的な力を育てるということですが、大田にあるものづくりを中心に、それ以外のものに関しましても、大田の未来を見据えて取り組むということで行ってまいりました。

例えば、小池小学校では周年行事があったのですが、そのデザインをみんなで考えてお饅頭を作ろうとか、地域の人や事業者の方にも協力いただきながら、取り組んでまいりました。

それで、新たな教科を5、6年生が取り組むということなのですが、1年生のと

きから生活科、総合的な学習を含めて創造力を養っていくことや、5、6年生のおおたの未来づくりに向けた教科づくりについて、どういう力を養っていくかということ、学校を挙げて取り組んでいる様子が伺えました。

また、タブレットを活用して、協働的な学習、新たな学習づくりにも取り組んでいただいています。

続いて、11月1日には、西六郷小学校で体育の研究発表会がございました。研究主題は、「豊かなかわりと、動く楽しさ・学ぶ楽しさのある体育の授業づくり」ということで取り組んでいました。

副主題は、「子どもの動きを高める 小さじ一杯の工夫」ということで、運動そのものを子どもたちが主体的に取り組めるように、少しずつの工夫があったのですけれども、その工夫がいろいろなところであって、子どもたちがよく体を動かして運動に取り組んでいる様子が、大変印象的でした。

マット運動でも、様々な子どもたちの運動の状況がありますが、それに合わせた小さじ一杯の工夫のおかげで、良い授業が進められていたのではないかと思います。

このコロナ禍の中で、やはり体を動かす機会が減少しておりますので、それを補っていく工夫が、大事な教育活動ではなかったかと思えます。

続いて、11月14日には池上小学校で、小学校における教科担任制についてのことを中心とした研究発表がございました。研究テーマは、「思いや考えを伝え合い、協働して学習する児童の育成」ということです。教科担任制で、ほぼ中学校と同じ程度にそれぞれの教科の担任をしておりました。

その中で、子どもたちの状況をどう把握するかとか、教員の専科の専門性をどう深めていくとか、そういう具体的な取組をしていました。小学校は学級担任制、中学校は教科担任制で、そこにギャップがあるということなのですけれども、小学校高学年においても、教科担任制が有効に機能するということを実証的に示していただいたかと思っています。

あと、研究内容の一つが、「伝え合う力」ということで、表現力を磨くために子どもたちが伝え合い、話し合うという活動を基にしていました。池上小学校は全校の子どもたちの詩を載せた文集を毎年作っているのですけれども、そういう表現力を活かしていこうという伝統と取組が、印象的でございました。

それから、11月15日は、田園調布小学校で体育の研究発表会がございました。自己の学習課題を見だし、粘り強く解決しようとする児童の育成ということで、できる・分かるといった経験に寄与するということです。

これも、非常に工夫されていたと思います。体育の授業というのは技能を教えて、それを学んでいくのですけれども、子どもたち同士で相談しながら、ここはうまくできているとか、課題を追求していくような学習で、今までの体育の学習と少し違ってきたかなと思います。

田園調布小学校の子どもたちはよく話しますし、コミュニケーションや言葉の力を活かしながら、子どもたちが技を教え、自分たちで技を獲得していくという教育であったと思います。

続いて、周年行事についてですが、11月5日に清水窪小学校で90周年の式典がありました。清水窪小学校は、十数年前に一度学校の子どもの数が急激に減ってしまったこ

とがあったのですけれども、その後、科学教育に特色を持って一生懸命取り組んで、今はどの学年も2クラスと、非常に子どもたちの数が増え、そういう新たな教育を作っているという学校の熱意と子どもたちの状況がうまくかみ合っていて、学校の隆盛につながっているのかなと思いました。

また、11月12日は、入新井第二小学校の100周年記念式典が行われました。この入新井第二小学校の歴史をたどると、明治時代に磐井小学校と新泉小学校というのがありまして、その後、これらの改称や合併等があり、今年100周年ということでした。

入新井、新井宿へ行ってみると、やはり歴史のまちですね。義民六人衆というのが、直訴を計画して打ち首になったというような話もあるので、昔の東海道が走っており、非常に歴史のあるまちであります。この小学校には人権教育でも頑張っているのですけれども、大変しっかりとした周年行事がありました。

それから、11月19日土曜日、館山さざなみ学校の40周年を祝いました。大田区制の前、大森区と蒲田区に分かれていたときに、大森区の養護学校、蒲田区の養護学校としての歴史があります。

それを受け継いで、戦後に一つになって、館山さざなみ学校ということになりました。

館山の子どもたちを見ると、教育環境の重要性を感じるころです。特別支援学校なので、肥満であるとか、病弱であるとか、そういった子どもが来ているのですけれども、子どもたちを見るとそういう状況はあまり感じられず、非常に健康管理、運動を頑張っているなと思いました。

卒業生が、館山さざなみ学校を出てリバウンドしてどんどん太ってしまったのだけれども、これではいけないというところで、一つ一つ自分で頑張ったという話がありました。

その話を聞くと、館山さざなみ学校で頑張って、一度痩せて健康になったのだという自信、体験は大きいです。

また、リバウンドしても、前はできたのだから、また戻れるはずだという言葉信じて頑張ったということが卒業生の保護者の言葉にありました。小学生のときはできたという経験が、これからは様々な困難があると思うのですけれども、やはりその自信が、そういう困難を乗り越える力になっているのかなと思いました。

あと、周年記念そのものには関係ないのですけれども、祝賀会では落語家の方が司会をしていました。この落語家の方は、入新井第四小学校のPTA会長でした。館山さざなみ学校も、入新井ブロックというPTAのグループに属しており、そういうご縁で祝賀会の司会をしていましたが、大変上手でいらっしゃいました、やはり話し家さんですから、素晴らしい進行だったなと思います。

言葉の力というのはすごいなと思ったのと同様に、そういうPTAの方のつながり・きずなの深さというのですか、良さを感じています。

PTA活動は、コロナ禍の中で色々イベント等、苦勞されているところもあるのですけれども、やはりPTA同士のつながりが、子どもたちの成長に関わっていくというのは、大変ありがたいことだなと感動したところがございます。PTAの人たち、社会の人たちのつながりが、子どもたちを支えているという例かなと思いました。

以上、研究発表会と周年行事の報告をさせていただきました。

何かご質問・ご意見はございますか。

### ○三留委員

教育長からもお話がありましたけれども、池上小学校で行われた研究発表会に関して、小学校の教科担任制について、私の考えを述べさせていただきたいと思います。

小学校の教科担任制については、今から 45 年ほど前に、入新井第一小学校で大変先進的な取組が行われていたということを、以前の定例会で紹介させてもらいました。その後は、担任同士の交換授業などの取組が若干見られる程度で、実施・定着につながることはありませんでした。

近年、義務教育 9 年間を見通した教育課程、指導体制の在り方が見直されて、教科担任制の必要性が指摘される中、令和 3 年 1 月に中教審答申「「令和の日本型学校教育の構築」を目指して」が出され、小学校高学年からの教科担任制を、令和 4 年度を目途に導入することが示されて、現在に至っています。

これを受けて、東京都教育委員会が教科担任制等推進校として 10 校を指定しまして、その一つが、池上小学校ということになっています。大田区教育委員会の教育研究指定校として、研究をしています。

大田区では、入新井第一小学校以来の本格的な小学校教科担任制の取組ということで、興味深く参観しました。

小学校教科担任制の実施は、小学校の授業改善のために行われるものですが、ひいては、学校全体の指導体制の転換につながるものだと思っています。そのねらいは三つあると、私は以前から思っています。

一つ目は、より専門性の高い教科指導の実現です。

二つ目は、中学校教育への円滑な接続です。

三つ目は、学年専科のまとまりでの指導体制の構築と多面的な児童理解の推進です。

近頃では、入新井小学校もそうだったのですけれども、教員の働き方改革という観点から、さらに業務の負担軽減の要素も加えるようになってきております。池上小学校の取組というのは、こういったことを意識した良い取組だったのではないかと考えております。

教科担任制のためのシステムづくりについては、学年内の教科担任の取組をしていることと、時間割を工夫して、学年全ての担任の空き時間を同じコマで取ることなど、入新井第一小学校で行われていることと似ている面がありました。これから教科担任制に取り組みもうとする学校にとって、取り組みやすいモデルだと思っています。

入新井第一小学校と違うのは、加配の専科が増えているということです。これは大きなことだと思います。高学年は、音楽、図工、家庭科のほかに、学級担任ではない、理科、外国語での加配の専科が付いております。これにより、持ち時間数の軽減が図られ、副担任制の取組も進めております。

池上小学校の取組は、こうした加配を生かした学校体制の改善も進めていました。

研究発表会では、専科教員の授業を中心に見ました。当日は、理科、社会、国語、体育の専科の授業でしたが、どの教員も、専科教員としての自覚を持って、しっかりとした授業づくりをしていると感じました。担当教師によっては、何より教材研究にじっくり取り組めることが、大きなメリットになるのだと思いました。

先ほど、教育長の話があったのですけれども、池上小学校の研究で優れていることの一

つに、様々な学習方法の開発があります。池上小学校は、「思いや考えを伝え、協働して学習する児童の育成」をテーマに挙げて研究を進めているわけですが、話し合いだとか、交流に関わる多様で効果的な学習活動が見られました。アイデア・工夫がある授業が多く、それぞれの教師の発想の良さを感じました。

近頃は、池上小学校のほか、西六郷小学校や、小池小学校の研究発表を見ましたが、どの学校も、学習活動の多様化というのが図られていて、協働的な学びの充実がなされていると感じています。

池上小学校では、その教科担任制に関わって、多くの成果が出されているのですけれども、課題も示されました。

例えば、研究発表で出されたことの一つに、「教科についての相談ができない」というものがありました。

中学校であれば、同じ教科の先生が複数いるということが多くて、そこで相談をしたり、一緒に検討を加えたりすることができるのですけれども、現状の小学校では、難しい面があるのだと思います。

専科教員の専門性を考えたときに、きちんとした教材観を持って、授業づくりをしていかななくてはなりません。小学校の場合、低・中学年は、専科になりません。それから、他校に移ったときに、同じ教科の専科になるとも限りません。

○J Tによる専門性を磨く機会の確保や、担当教科の固定化が大きな課題になると思います。

小学校教科担任制については、担任のみで学級の子どもの責任を持つとか、ほとんどの教科を担当が担当するという、これまで脈々と積み上げてきた学級担任制から大きな転換になるわけで、今後、徐々に各校に広げられていくと思っております。

学校の規模や実態に合わせて、自分の学校だったらどうするのかという検討を、今から各学校で進めていく必要があると思っております。

## ○教育長

ほかにございますか。

## ○高橋委員

研究発表会に行った話をしたいと思えます。

小池小学校では、ホワイトボードを使ったグループ活動をしていました。自由に書いたり消したりできるホワイトボードの利点を生かし、グループで話し合い、全体の目標を決めて、積極的に図や言葉で記入してまとめていました。子どもたちが意見を出し合いながら学習している姿は、とても活気がありました。

また、道塚小学校、出雲小学校と違って、地域に工場があまりない学校なのですが、先生方が地域を回って探したという話を聞き、先生方にも地域を知っていただいたのだなと嬉しく思いました。

池上小学校ですが、教科担任制ということで、5年生、6年生だけは教科担任の授業をしていたのですが、学年全体で児童を指導することで、子どもを見る目が多くなって共通の理解ができたり、授業の持ち時間数が減ったりすることで、働き方改革にもつながると

いった利点があると聞き、教科担任の授業はとても良いなと思いました。

特に、体育の授業ではバスケットボールをしていたのですが、兄弟チームを作ってお互いに助言をし合うことでゲームの楽しさに繋げていたり、クラスによってルールを考えて、みんなが楽しく参加できるようにしたりしています。

得意な子も、苦手な子も、全員がシュートできるようになるのは、楽しい授業につながると考えています。

11月4日に、矢口中学校の指導訪問に同行しました。5校時、6校時の授業参観と協議会を見させていただきました。

授業は、先生方の熱心さが伝わって、生徒たちも集中して学習していました。生徒たちは、素直で気遣いができる子どもたちでした。生徒で組織するスクールバディというものがあることや、養護教諭の存在など、気軽に相談できる場所があるということは素晴らしいと感じました。

協議会では、教科別の分科会で具体的に授業の方法の提示など、きめ細かい指導があり、先生方もこれからの授業に活かせるよう、熱心に聞いていました。

#### ○教育長

ありがとうございました。

ほかにございますか。

#### ○北内委員

私も、研究発表会は小池小学校と田園調布小学校、周年行事は清水窪小学校と入新井第二小学校と館山さざなみ学校に出席させていただきました。

ここでは、田園調布小学校の研究発表会について報告します。

田園調布小学校は、東京都の小学校体育研究推薦校ということで、今年度は、来年度の最終発表に向けた中間発表という位置づけでした。

1年生は、「いろいろなものをたべてみよう」、2年生は、「体づくりの運動遊び」、3年生は、「器械運動「マット運動」」、4年生は「保健「体の発育・発達」」、5年生は「陸上運動「ハードル走」」、6年生は、「器械運動「跳び箱運動」」でした。

私は、中学年と高学年の分科会に出席させていただきました。この中で、3年生のマット運動について、お話しさせていただきます。

運動自体を細かい技、スモールステップに分けて、スモールステップを意識した技や練習の場を例示し、ICTを活用されていました。一つの技としての「できた」「できない」ではなく、技を細分化して児童に提示することで、「できる」を増やしていけるようにしていました。

また、タブレットのスナップショット機能を活用することで、自己の動きを自分で確認できるようにしていました。そうすることで、現状を把握できるようにし、自分に合った学習課題を見出せるように工夫されていました。実際、児童たちを見ているとグループ同士で話し合いながら、自分自身の課題を見つけ、適切な練習場所へ移動して、一つひとつのスモールステップを進めていました。

一方で、分科会の講師から指摘されたのですが、3年生だと授業の振り返りのタブレッ



ト入力に多少時間を要するため、今後の改善に期待したいということでした。

次に、就学支援委員会を視察させていただきました。関連校の校長先生と関係者が集まり、児童・生徒一人ひとりの個を大切に、議論を重ねてくださりました。保護者の中には、心配・不安な方もおられるかもしれませんが、学校としては子ども一人一人にとって最良の教育を真剣に考えてくださっていました。安心してください。

また、特別支援学校、特別支援学級、サポートルームについて勉強させていただきました。

最後に、周年行事に関して、教育長からも報告がありましたが、館山さざなみ学校はある意味、区内全校がお世話になっているので、PTAの方々だけでなく、校長先生も多数出席して下さり、感謝しております。ありがとうございました。

#### ○教育長

ありがとうございました。

ほかにはありますか。

#### ○弘瀬委員

10月29日に、大森第五小学校の運動会に行かせていただきました。学年を分けての発表でしたけれども、笑顔いっぱいの子どもたちを見ることができて、とても嬉しく思いました。

自分たちで考えて取り組むように指導はあったようですが、まだまだ子どもたちは消化不良という感じで、十分に成果を発揮できていなかったようでしたが、それでも、自分たちの取組をしっかり捉えていたようです。

残念ながら、館山さざなみ学校の式典には出席できませんでしたが、当校に関しましては、当初は肥満児、喘息など呼吸器疾患をもった子どもたちを転地療養としてお預かりするという立場の学校でした。肥満の子どもたちは、夏休みなど長期休暇に自宅に戻って生活をすると、体重がまた元に戻ってしまうなどの繰り返しでした。それでも、6年生ぐらいになると、どうすれば体重を増やさずに済むかを習得してきます。

それから、喘息の治療薬も今ほどいい薬がなかったので、京浜工業地帯に戻ってくると、喘息の発作を起こしてしまう子どもたちがいました。今は良い薬ができて、安定した生活を送ることができるようになってきました。

学校医は喫煙防止教育というのを学校に赴いて行っています。今年は11月14日に大森第五小学校に行ってきました。毎年6年生を対象に行っていますが、子どもたちに興味を持ってもらい、その授業に集中して聞いてもらうというのは非常に難しいです。この学年には、どういう子どもたちがいるか事前に養護教諭の先生あるいは校長先生から聞いてはいますが、なかなか思うようにいきません。日々、教育をなさっている先生方には、本当に頭が下がる思いでございます。

#### ○深澤委員

私は、池上小学校、田園調布小学校の研究発表会、調布大塚小学校の指導訪問に同行させていただきました。

まず、指導訪問についてですが、研究発表会とは違って、指導主事やICT支援員が、学校の先生の授業を熱心に聞いて、それに対してここが良かったとか、工夫すべき点について具体的なお話をされていて、学校の先生と指導主事の貴重な交流の機会であるということ、改めて感じました。

今まで授業で発言をしなかった子も、ICTを使い自分が書いたものをグループで共有することになると、自分の意見を発表せざるを得なくなり、今まで手を挙げなければ発言をすることがなかったのに、ICTを使うようになってから、自分の意見をきちんと発表する場ができて、それが利点であるというようにお話を伺いました。

ただ、それが利点になると同時に、授業になかなかついていけないとか、難しいような子どもに対しては、きちんとフォローをしていかなければいけないというようにお話もあって、そういう話を教員の先生方と指導主事の交流の中で話されていたので、有益な場であると感じました。

研究発表会では、田園調布小学校の6年生が跳び箱の上で前転をする練習をしているのがすごく印象的でした。私は見ているだけでもひやひやしてしまったのですが、それができるようになるための過程がよく見えるようになっていました。まずは、マットをちょっと高くして、誰もが恐怖心が出ないような形で前転ができるようになる。その後に、跳び箱の上から下までマットをくまなく敷いて、落ちても大丈夫なようにして前転を試みる。そうすると、だんだんできるようになります。

その後、マットを跳び箱の上にUの字にして、その中をころんと前転する。それをできるようになったら、いよいよ何の補助もなしで前転を試みるというように、できるようになる過程が見えるのです。

最初はできなかった子がやっているうちにできるようになり、できたとすごく喜んでいて、周りの子どもも良かったねと、みんなでわっと拍手をしているような姿も垣間見ました。子どもたちが、自分ができるようになる過程が見えたということが、跳び箱に限らず、これからの学習においても、過程を経ていけばできるようになるのだという自信につながっていくということを感じました。

また、技ができたときに、友達と喜びを分かち合えるということがその子どもにとって大きな喜びになるので、非常に良い学びをされているなと感じました。

#### ○教育長

ありがとうございました。

ほかにご意見・ご質問は、よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして、令和4年第11回教育委員会定例会を閉会いたします。

(午後2時38分閉会)

令和4年 第11回 教育委員会 定例会 11月21日(月) 午後2:00～

教育委員会室

<教育長の報告事項>

<部課長の報告事項>

教育総務部長

参事(教育施設担当)

教育総務課長

教育施設担当課長

副参事(教育地域力担当)

副参事(施設調整担当)

学務課長

指導課長

指導企画担当課長

学校支援担当課長

副参事(法務担当)

教育センター所長

幼児教育センター所長

大田図書館長

令和4年11月21日

令和4年第11回教育委員会定例会日程

日程第1 教育長の報告事項